



東京2020オリンピック ブラジル事前キャンプ報告



©大田区

©2021 大田区



ブラジル事前キャンプ報告

●概要

区は、2018年にブラジルオリンピック委員会(COB)と東京2020オリンピックにおける事前キャンプの覚書を締結し、2019年に協定を締結した。また、覚書等の締結に伴い文化、経済等における相互交流を図るホストタウンとしても登録を行った。

これまで2018年に男子ハンドボール、2019年に男子バレーボール及び女子ハンドボールチームが区施設を利用し、合宿を行い、公開練習や学校訪問等によって、区民との交流を深めてきた。東京2020オリンピックにおいては、6競技の事前キャンプが行われた。



●事前キャンプ受入競技等

競技	練習施設	期間
男子バレーボール	大田区総合体育館	7月14日～21日
ボクシング		7月12日～7月22日
ハンドボール	大森スポーツセンター	7月13日～8月1日
レスリング		7月20日～7月29日
テコンドー	大田区青少年交流センター	7月15日～7月22日
ビーチバレー	大森東水辺スポーツ広場ビーチバレー場	7月13日～7月23日



●滞在先

選手団は、大田区青少年交流センターと大森駅周辺のホテル(1か所)に滞在した。

●感染症対策

滞在期間中、選手団は検査を受け、区が定めた感染症対策マニュアルに沿って、専用車両を使いでの移動、宿泊先と練習施設等練習に必要な施設のみで活動した。

●メダル獲得競技

競技	結果
ボクシング	金メダル:男子ミドル級 エベルト・ソウザ選手 銀メダル:女子ライト級 バアトリス・フェレイラ選手 銅メダル:男子ヘビー級 アブネル・テイシェイラ選手

●その他の主な競技結果

- 男子バレーボール 4位
- 男子ハンドボール 予選ラウンド敗退
- 女子ハンドボール 予選ラウンド敗退
- 男子ビーチバレー 準々決勝敗退他
- 女子ビーチバレー 準々決勝敗退他



●おおたウエルカムボランティアの活動

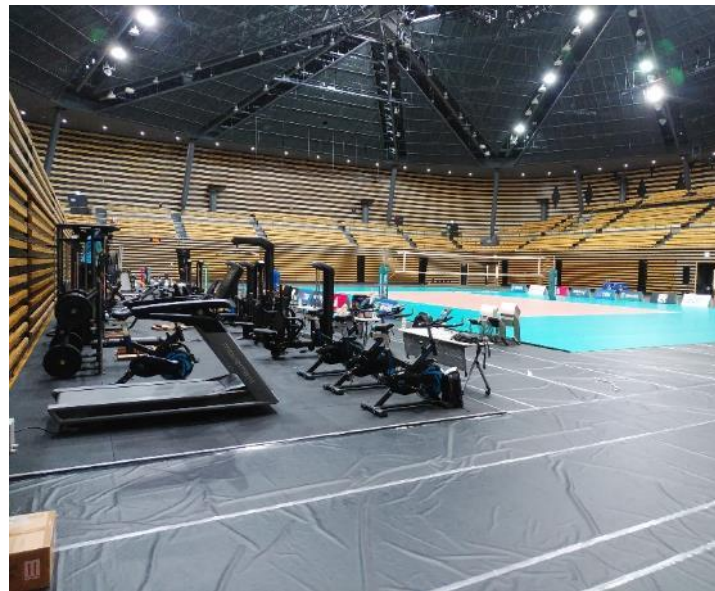
各練習施設でモップ掛けや飲み物の補充など行った。国際交流分野のボランティアは語学力を生かし、COBスタッフと区職員等との通訳を務めた。感染症対策のため、活動前後で検査を実施した。

●オンライン交流

7月19日(月)に区内中学校3校とオンライン交流を実施した。感染症対策のため選手団の訪問が困難であったため、選手から生徒に向けてビデオメッセージが送られた。

	学校名	時間	ブラジル選手団	内容
1	大森第六中学校	13時30分から 14時00分まで	ボクシングチームスタッフ1名、COB職員1名	・生徒からチームスタッフへの質問 など
2	大森第十中学校	14時30分から 15時00分まで	男子ハンドボールチームスタッフ1名、COB職員1名	・生徒からチームスタッフへの質問 ・ブラジルオリンピック委員会マスコット「ジンガ」との交流 ・チャリーディング、ブラスバンド披露 など
3	石川台中学校	15時10分から 15時40分まで	男子バレーボールチームスタッフ1名、COB職員1名	・生徒からチームスタッフへの質問 ・ブラジル国歌斉唱 など

男子バレーボール、ボクシング@大田区総合体育館



ハンドボール、レスリング@大森スポーツセンター



テコンドー@大田区青少年交流センター／ビーチバレー@大森東水辺スポーツ広場



宿泊・食事:大田区青少年交流センター

大田区青少年交流センターは、選手団の宿泊及び食事場所として使用された。食事はCOBが手配したシェフ等が作る料理が提供された。選手村開村後、選手は各競技日程にあわせて移動し、引き続きCOBスタッフや競技団体関係者が滞在していた。



～ブラジル選手等の主な感染対策～

- ・来日以降、定期的に検査を実施(選手の来日以降は毎日) ・屋内外でのマスクの着用をはじめ手指消毒、手洗い等基本的対策の徹底
- ・移動手段は全て専用車両とし、宿泊施設や練習会場など事前に作成した行動計画に基づく用務地でのみ活動
- ・区民等と接触の可能性が見込まれる練習会場や宿泊施設においては、職員等が動線を確保 など



オンライン交流

ホストタウン交流の一環として、7月19日(月)、各競技チームのコーチとCOBスタッフが区立中学校3校の生徒とオンラインで交流した。中学生がブラジルの文化や競技の練習方法など質問したほか、ブラジル国家の斉唱、吹奏楽やチアリーディングを披露し、応援メッセージを送った。また、選手から生徒に向けたメッセージ動画が放映された。

◎参加校:大森第六中学校、大森第十中学校、石川台中学校



ブラジルスタッフによる交流の様子



大森第十中学校の交流の様子



石川台中学校の交流の様子

石川台中学校から送られた
VAMOSと記念撮影

- ★ ブラジル選手等がプレイブック及び事前キャンプ受入れマニュアルを遵守したことに加え、各施設管理者及びボランティアが尽力し、住民等との接触を回避したことで、感染者を一人も出すことなく、ブラジルの計画通りに事前キャンプを終えることができた。
- ★ オンライン交流を行った生徒のオリンピックや外国文化への関心、ブラジルを応援する気運を高める機会となった。また、吹奏楽の演奏やポルトガル語によるメッセージ文字などで歓迎の意を伝えることができた。
- ★ 公開練習が出来ない中で、ビーチバレー場については公園内にあり視界を遮るものがなく、近づけないようにコーンバー等で周囲を囲んでいたものの、近隣の方や公園利用者が観ることができたため、ブラジルを応援する気運醸成に繋がった。
- ★ 選手が自身のインスタグラムで練習の様子を投稿したことにより、区外に住んでいる方からも問い合わせや来訪があった。
- ★ COBスタッフを通じて選手からは、「来日前はこれまでの大会と異なり不安であったが、検査の対応がスムーズであり、また練習時にボランティアや施設スタッフが親切に接してくれたため、快適に過ごすことが出来た。」「今までのオリンピックの中で一番良かった。」などの感想があったと聞いた。
- ☆ これまでの合宿を含め、世界トッププレイヤーを間近で観てもらうことで、オリンピックの素晴らしさと競技の魅力を伝えることができた。
- ☆ 学校訪問や競技者講習会、オンライン交流を通し、学習した語学にジェスチャーを交えてコミュニケーションを図ったことで、生徒をはじめ区民の国際意識の醸成に寄与することができた。
- ☆ 事前キャンプの受け入れを通じて、ブラジルオリンピック委員会だけでなく、ブラジル大使館との友好関係をより強めることができ、今後の区民交流の礎とすることができた。